

よえもん

2015年2月

第 22 号

シリーズ
よえもん

小川村の先生



夏のある日のことです。田んぼの草取りを終えた村人が、よえもんさんのところへやってきました。
「よえもんさん、1ぱいたのみます。」村人はこしをおまじして「よえもんさん、実は困っていることがあります。田んぼの川ぶちの石がさが、いくら積みなおしても、大雨が降るとすぐにくずれてしまうんです。何かよい知恵はありませんかな？」と聞きました。

「それはやっかいなことだ。それでは、石がぎの下に松のくいを5、6本打ち込んでみてはどうだろう？ 丈夫になると思うんだが。」村人はうなずきながら、

「なるほど、それなら簡単にできますな。さっそくためてみます。よえもんさん、良い知恵をおおきにありがとう。」とよろこんで帰りました。村人のその石がぎは、秋の台風や大雨にもびくともしませんでした。

こんなことがあって、村人たちはお酒を買いに来るだけでなく、村の行事や、家族の病気のことまで、相談に来るようになりました。いつしか、村人たちはよえもんさんのことを「藤樹さん」と呼ぶようになりました。よえもんさんの家の庭には、大きな藤の木があって、それを大切にしていたからでした。

現在、春にそれとはちがう新しい藤の木がきれいな花を咲かせます。



近江聖人中江藤樹記念館
高島市安曇川町上小川69 TEL/FAX (0740)-32-0330

今月のことば

暗くともたご向に
進み行け
心の月の
はれやせんもし

書・洲田瑞穂さん
出典・中江藤樹の和歌

「今は暗い道をあゆんでいるように思うかも知れないが、ただひたすら進むことだ。そうすれば、いつかは良知の月が、おられるかも」という意味です。

「良知にいたるとは、どんな生活をすればよいのだろうか」ともずかしく思いますが、たとえば、「願つき」「言葉づかい」「まなざし」「よくきく」「思いやり」の五つのことに気をつける生活を続けていくと、きっとわかってくるはずですよ。

記念館さんぽ

- 節分が過ぎて、暦の上ではもう春です。木にも春が来ているようで、椿のつぼみが陽明園でも見られるようになりました。
- 江戸時代では、2代目将軍徳川秀忠が好んだお花で、芸術の題材として広く知られるようになりました。

